

Life is a game — 連作「Anconette del cuore」への序文

生は理性から独立した遊びであり、
現実の物理的な限界を越えて、精神へと注ぎこむ。
生は自由な遊びであり、芸術は玩具である。
それは物神という役割を捨てて、
自らの遊戯的で聖なる本性へ戻ってゆく。
なぜなら「まじめな」遊び（子どもたちの遊ぶ遊び）だけが、
理性には閉ざされたあの美と聖性の高みへ
われわれを引き上げうるからだ。

あまり深刻に受け取ってはいけない。それはただわれわれの生にすぎない。
つまずきだらけの踊り、
愛撫に満ちた激情、
負けようのない崇高な遊び。

われわれの社会的・文化的・芸術的な構築物のすべてが、まず第一に
遊びとして生まれるのなら、遊ぶことと生きることは同じだと想像してよい。

生とは、何も知らないという遊びである。
どこから来て、どこへ行くのかを知らないという遊び。
オープンワールドで、結末もオープンな遊び。

遊ぶことは第一の戒めであるべきだ。イタリアは、
人生を遊ぶ勇気の上に築かれた共和国であるべきだ。
『トイ・ストーリー2』のプロスペクター（スティンキー・ピート）は、年老いた金鉱掘り
の人形で、
一度も元の箱から出されたことがなく、一度も生きたことがない。彼は東京の博物館に
展示されることを、自らの存在の唯一の贖いの可能性と見なしている。

自分の生を遊ばなければ、
誰もそれを享受できない。
のちのちであっても。
たとえ極上の状態で保存され、
一度も使われていなくとも。

遊びと玩具は、われわれを取り巻く世界に対するわれわれの力の隠喩であり、われわれが全

能であり、待ち受ける未来の創造者であることの記憶である。

私が作った小さな祭壇は、われわれの過ぎ去った遊びの小箱であり、われわれが子どもであったこと、そして今もわれわれのうちに住まうあの子どものまわりに自分自身を作り上げてきたことの、消えない記憶である。

小さな祭壇は記憶の小箱であり、時空の窓であり、正確なひとつの瞬間に、親密な観想と瞑想のひとときに、時を止めることができる。

持ち主の品物や、もはや存在しない時代のアイコンを収めることもできる。それらは過ぎ去った時間の箱であり、不滅のアイコンであり、世俗の神々への誓願であり、時間の線に立てられた小旗であり、奉納物である。像とともに、音楽とともに、香りとともに、言葉とともに、囁きとともに。それらは示唆であり、過ぎ去った時の喚起である。

その聖性は、閉じたまま、秘められたまま、われわれ以外のすべての目に隠されたまま生まれることにある。金を施され漆を塗られた内部は、心臓を、われわれのうちの子どもを、われわれの生のあの時のひと息の音楽と響きを表している。

小さな祭壇は、心の記憶の金庫である。

われわれの心臓を収めた箱は、ロマネスクの教会のように、生の風雨に耐えてきた。われわれの心臓を収めた箱には美しいところなど何もない。錆びついていて、正しい鍵によってしか開かない。

祭祀は聖なる遊びとして生まれ育ち、詩は遊びのうちに生まれ、遊戯の形式のうちに生きつづけた。音楽と舞踏は純粋な遊びであり、知恵と知識は聖なる競技のうちに現れ、高貴な生活の作法は遊びの形式に基づいていた。文化はその原初の段階において遊ばれる。文化は遊びのうちに、そして遊びとして展開する。

ヨハン・ホイジンガ

あなたが自分の子を愛をこめて腕に抱いたのちには、深く見つめることができるようになるでしょう。

ティク・ナット・ハン

自分自身を五歳の子どもとして思い描き、その子を招いて共にいてもらいなさい。あなたのなかにまだ生きている、あの男の子あるいは女の子を

ティク・ナット・ハン

有用性も真理も比較の価値も含まず、害をなす力すらもないものは、それがもつ優美さと、それが与える快とによって判断するのが最もよい。

そのような快が、遊びである。

プラトン

プラトンの対話篇『ノモイ（法律）』にはこうある。[……] 人間は [……] 神々が作った

玩具にすぎず、そして実にそれこそが人間の最良の部分である。この考えに従えば、すべての男とすべての女は、この遊びをできるかぎりよく遊びながら生きねばならない。
プラトン

働き、生産するところではどこでも、われわれは神々とともにおらず、われわれ自身も神的ではない。神々は生産もしないし、労働もしない。
ビョンチョル・ハン

金融危機のさなか、ギリシャで、未来からの徴のようなことが起こった。子どもたちが崩れた家のなかで札束を見つけ、それをまったく新しい用途に使ったのだ。彼らはそれで遊びはじめ、破りはじめた。
この子どもたちは、いわばわれわれの未来を先取りしている。世界は瓦礫である。その瓦礫のあいだで、われわれはあの子どもたちのように紙幣で遊び、それを破る。あのギリシャの子どもたちは、貨幣を、資本を、新しい偶像を冒瀆する。まったく別の用途に、すなわち遊びに用いることによって。冒瀆は、今日これほどまでに物神化された貨幣を、突然ひとつの玩具に変えるのだ。
ビョンチョル・ハン

Qui nolet fieri desidiosus, amet.
(怠け者になりたくない者は、愛せ。)

Luca Motolese・Torino 2018

motolese.com — 原文はイタリア語